

2010年度 決算説明会  
主な質疑応答

Q1:説明会資料2ページ目(以下、資料)の営業利益増減要因について、震災影響が▲54億円とのことですが、売上への影響がいくらであったか、また震災以降どのビジネスで売上への影響が大きかったかについて教えてください。

A1:営業利益への▲54億円に対応する売上影響は▲133億円でした。震災以降の売上影響でいうと、富士ゼロックスの機器売上への影響が比較的大きかったといえます。

Q2:資料10ページ目の震災による調達影響について、富士ゼロックスの機器について、現状は生産を再開しているものの、今後電子部品の調達リスクがあるとの説明がありましたが、生産見通しについて教えてください。

A2:複写機の製造については、部品不足の影響により上期で10%程度の生産台数の落ち込みがある可能性も想定しています。しかし、主力機種については計画全量を生産すること、トナーや紙など消耗品の生産体制は万全であること、また下期まで影響が続くことはないとみていることから年間トータルでみた場合のインパクトは大きくないと考えています。

Q3:2011年度の業績は増収増益の見通しですが、主要事業の売上の見通しや営業利益に強い影響を与える要因について、現時点での想定を教えてください。

A3:売上について、フラットパネルディスプレイ材料事業ですが、液晶面積はアジア他新興国の需要に牽引され引き続き成長するとみております。タックフィルムについては、偏光板メーカーの生産効率向上などから液晶面積成長ほどは伸びず、数%程度の売上伸び率を想定しています。ドキュメントソリューションについては、現時点でカラーコピー抑制などアフター収益に影響を与えるような事象はみえませんが、今後の国内の需要動向は非常に読みづらい状況です。

営業利益面では、特に銀の高騰が与える影響を非常に懸念しています。震災影響の見積もりも難しい中ではありますが、今年度1,364億円の営業利益を上回る利益は確保していきたいと考えています。

Q4: デジタルカメラの販売台数計画について教えてください。

A4: 前年度比 25%増の 1,400 万台を計画しています。部品調達については大枠目処をたてており計画通り生産を継続しています。

以上